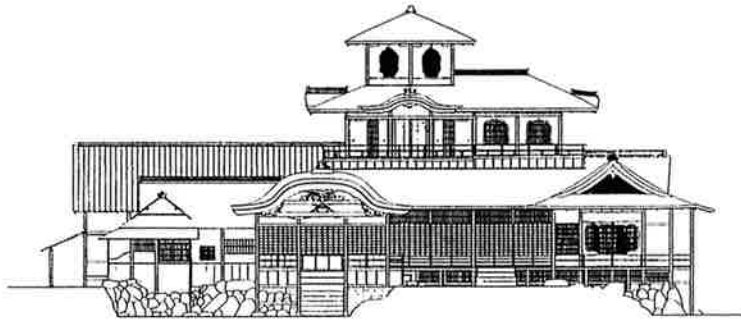


日本イコモス国内委員会

# JAPAN ICOMOS INFORMATION

第4期 第10号 2000年3月22日 発行



## 目次

本部役員選挙の結果をめぐる疑問と紛争	石井 昭	1
1999年次第4回理事会（拡大理事会）報告	山田幸正・他	2
日本イコモス国内委員会1999年次総会記録	石井 昭・他	4
I. 報告事項		4-7
II. 審議事項		8-14
III. 協議事項		15-16
2000年次第1回理事会（拡大理事会）報告	石井 昭	17
シンポジウム「建築遺産の保存修復と建築史 - 海外編」	岡田保良	21
研究会「近現代建築の保存について考える - 第3回」	田原幸夫	23
事務局日誌（1999/11/1~2000/2/29）	事務局	27
お知らせ - 6件	杉尾伸太郎・山田幸正・他	29

JAPANESE NATIONAL COMMITTEE

ICOMOS

INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES / 国際記念物遺跡会議

表 紙 : 本願寺飛雲閣  
COVER : Honganji Hiunkaku

## 本部役員選挙の結果をめぐる疑問と紛争

石井 昭

メキシコ総会の最終日（去る1999年10月23日）に行なわれた本部役員選挙、とりわけ会長選挙は、既報のごとく、イコモスの内部に憂うべき事態をもたらしました。一言にしていえば、投票結果の信憑性をめぐる深刻な疑問と紛争です。日本イコモス会員の皆様に事態の推移をお知らせするために、再び重い筆を執ることとしました。

会長職	投票結果	初回	決選
C. F. Marini	(Mexico)	142	—
M. Petzet	(Germany)	516	当 637
M. R. S. I. Ducassi	(Spain)	460	563
- ABSTENTIONS		2	10
- TOTAL		1120	1210

左の表は会長職についての投票結果を示しています。初回投票では過半数得票者が無く、決選投票によって M. Petzet 氏（ドイツ）が当選と決まりました。これに関し総会席上で提起された疑問は次の通りです。- 決選投票の TOTAL（投票総数）が初回投票よりも増えたのは不可解だ。帰国旅程の都合で会場を去った人

々もいるので減るのが当然ではないか。数値に誤りがあるとすれば当選者が逆転する可能性もあろう。- しかし議論は不毛のまま閉幕。落選した M. R. S. I. Ducassi 女史（スペイン）は 20 余名の連署を得て「真相究明」を訴える要望書を総会議長 R. B. Castro 氏（メキシコ）に提出しました。11月に入ると、同女史だけでなく、C. Mesén 氏（コスタリカ）S. Sampaio 女史（ブラジル）など、中南米の国内委代表たちも、電子メールによるアピールを諸方面へ送りました。むろん日本イコモスもそれらを受取っています。

11月20日ごろ、投票用コンピューターシステムの設計を担当したソフト会社 UNIMEDIA がようやく報告書を提出し、「システムは 23 台の端末と 1 台のホストコンピューターから成っていた」「初回投票では幾度か端末がフリーズを起したので部分的なデータの欠落が生じたかもしれない」「その後の投票では端末を 15 台に減らした」と証言しました。これを契機に事態が一段と深刻化したのは当然でしょう。「真相究明」を訴えていた人々は「投票結果無効」の主張へと重点を移しました。なかんずく、C. Pernaut 氏（アルゼンチン）=今次選挙で副会長に当選= は 12月中旬に本部（パリ）へ提案書を送り「規約の第 10条D 4 項を適用して郵便投票による再選挙を実施すべきだ」と主張しました。

本部では、12月19・20両日、Petzet 氏が初のビューロー会議（幹部 4 役会議）を召集し、協議のうえ、短いコミュニケを発表しました。ICOMOS NEWS (Vol. 9, No. 3) に全文が載っていますので、読まれた方も多いでしょう。「コンピューターの誤作動から憂慮すべき事態を招いたが現行規約のもとでは救済方法が無い」「唯一可能な結論は総会での選挙結果を是認することだ」といった内容です。各国の国内委員会へは新年 1 月になってコミュニケと共に 13 点の参考資料が配布されました。うち、事務局作成の 1 文書が特に重要で

有権者数= 1115 > 初回投票 > 決選投票

は明らかに誤りで、ソフト会社の証言とは逆に、過大であると言わねばなりません。

スペイン-中南米グループの人々は各種の情報を総合して「真の当選者は Ducassi 女史であった」と確信している模様です。それ故、ビューロー会議声明に対しても怯む気配はありません。最近（3月）になっても、R. Ulloa 氏（コロンビア）A. M. Carreño 氏（ペルー）J. N. Concha 氏（チリ）A. L. Conti 氏（アルゼンチン）T. C. Castro 氏（コスタリカ）などが「投票結果無効」と「再選挙」とを執拗に論じています。他方、それらに混じって 3月13日、ユニークな電子メール 1 通が届きました。「選挙問題は笑って済ませよう」「勝敗よりも参加が大切だ」といった内容で、発信者は P. Waldhaeusl 氏（オーストリア）です。受けて立ったのは目下のところ Conti 氏と Carreño 氏の 2 人（前出）ですが、「どうして笑えるのか」「正義こそが大切だ」と真剣に反論しています。

選挙は公正であったか？ このことが問われているが故に今日の事態は重大です。イコモス政治にかかわる権力闘争とのみ見なして放置するわけにはいきません。

# 1999年次第4回理事会（拡大理事会）報告

1999年次第4回理事会（拡大理事会）が、去る12月11日（土曜日）午前11時から午後0時30分まで、東京・神田の学士会館で開催された。出席者は、委員長：石井 昭、理事：稲葉信子・岡田保良・日高健一郎・藤本 強・前野まさる・宮本長二郎・宗田好史・安原啓示・山田幸正、監事：木原啓吉、顧問：伊藤延男・稲垣栄三、本部執行委員：西村幸夫、小委員会主査：益田兼房・羽生修二、事務局員：我妻綾子（陪席）の各氏、議事内容は以下の通りであった。

## [審議事項]

### 1) 新規入会者および退会者の承認

下記10名の入会と1名の退会について申請があり、審議の結果、これを承認した。

(入会希望者)	(現職)	(推薦者)
尼崎 博正	京都芸術短期大学学長	安原啓示・杉尾伸太郎
大井 邦明	京都外国語大学教授	岡田保良・藤本 強
大野 敏	横浜国立大学工学部助教授	吉田鋼一・稲葉信子
岡崎 篤行	東京都立大学大学院工学研究科助手	西村幸夫・山田幸正
友田 博通	昭和女子大学国際文化研究所教授	山田幸正・岡田保良
仲 隆裕	京都芸術短期大学助教授	安原啓示・杉尾伸太郎
布野 修司	京都大学大学院工学系研究科助教授	岡田保良・宗田好史
松波 秀子	(株)清水建設技術研究所主任研究員	稲垣栄三・小寺武久
八木 雅夫	明石工業高等専門学校助教授	大河直躬・岡田保良
山崎 正史	立命館大学理工学部教授	岡田保良・宗田好史

(退会者)	(事由)
屋部 憲右	本人希望 (12月1日付け書面により本人から申出)

本件に関連して「当面は年間15名程度の新規入会者を期待する」「入会推薦にあたってはイコモス本来の国際的諸活動への貢献を重視し、これまで手薄であった専門分野・職業分野に属する意欲的な人物を優先するように努める」との既存方針を再確認した。また委員長から「会員構成上、研究者と男性が多いのが日本イコモスの特色であるが、実務家と女性も歓迎したい」との意向が述べられ、これを了承した。

### 2) 1999年次会計報告

1999年次会計報告（1998/12/8～1999/12/6）が、宮本会計担当理事によって行われ、これを了承した。

### 3) 1999年次会計監査報告

1999年次会計監査が木原監事によって事前に行われ、その結果につき、同監事より適正と認める旨の報告があった。

#### 4) 総会に提出する議案書の点検

1999年次総会（同日午後1時開会）に提出するべく委員長・理事・主査が分担執筆した議案書を出席者全員で点検し、その内容を了承した。

#### 5) 世界遺産候補「琉球王国のグスク及び関連遺産」の審査

日本政府が登録申請中の世界遺産候補 Gusuku Sites and Related Properties of the Kingdom of Ryukyu をめぐって、ICOMOSのEvaluation Mission が2000年1月末ごろ現地を視察する予定であることが石井委員長より紹介された。また、これに関連してICOMOS本部事務局長+Jean-Louis Luxen 氏から11月30日付の書面で「Missionの受入れに協力して欲しい」「候補案件に対する日本イコモスの意見を聞かせて欲しい」との要請が届いている旨が報告された。審議の結果、本件に関する今後の措置は委員長と安原・稲葉両理事に一任することとした。

#### 6) US/ICOMOS SUMMER INTERN PROGRAM

例年どおり標記 Program の2000年次募集要項が間もなく送られて来るであろうとの前提で対応方針を審議し、以下のように決定した。（1）募集要項が届いたら速やかに日本イコモスの全会員にコピーを郵送する。（2）適切な期限を定め、応募状況を見たうえで、必要ならば稲葉・前野・渡辺3理事により選考を行なう。（3）その結果を受け、委員長の推薦状を添えて、事務局から応募書類を先方へ送付する。

#### 7) 次回拡大理事会の開催日時

現役員の任期最終年に当る2000年次は例年よりも拡大理事会を1回だけ多くして5回開催したい旨が委員長から提言され、これを了承。協議の結果、次回を1月22日（土曜日）午後1時からと決定した。

### [報告事項]

#### － 委員長のUS/ICOMOS事務局訪問

去る10月5日、石井委員長が Washington DC の National Buildings Museum 内にあるUS/ICOMOS Office を訪問し、事務局長 Gustavo Araoz 氏と事業部長 Ellen Delage 女史に会い、我が国の大学院生が毎年Summer Intern Program に招かれていることに対する感謝の意を伝えた。席上、先方から「Intern Program はもともと双務的な事業であるが、日本側に困難な事情があることも理解できる。対象を大学院生や若手専門家だけに限らなくてもよい。他の枠組による招聘事業が可能ならば提案して欲しい」との意向が示された旨、同委員長から報告された。

（理事会報告 文責：山田幸正・石井 昭）

# 日本イコモス国内委員会1999年次総会 記録

1999年12月11日(土曜日)の午後1時から3時30分まで東京・神田の学士会館において「日本イコモス国内委員会1999年次総会」が開催された。出席者は、荒木伸介、石井 昭、伊藤延男、稲垣栄三、稲葉信子、岡田保良、小野 昭、岸本雅敏、木原啓吉、河野俊行、杉尾伸太郎、杉尾邦江、土井崇司、西村幸夫、羽生修二、浜崎一志、日高健一郎、藤本 強、前野まさる、益田兼房、宮川朝一、宮本長二郎、宗田好史、安原啓示、山田幸正の会員各氏と事務局員・我妻綾子氏で、他に69名の会員諸氏から委任状の提出があった。議事は藤本 強氏(副委員長)の司会により、(I)報告、(II)審議、(III)協議、の3部に分けて進められた。

## I. 報告

### (1) 1999年次一般報告 委員長・石井 昭

昨年次(1998年次)総会は12月12日に当学士会館で開催された。以来ちょうど1年になる。この間を振り返り、わが日本イコモス国内委員会の組織と活動の概況について報告しよう。

#### 1. 理事会

今期(1998年-2000年)の理事会は1997年次総会の合意にもとづいて構成メンバーの範囲をやや拡大し、表決が必要な場合には規約を遵守するとの前提のもとに、理事・監事・顧問だけでなく、小委員会主査・ICOMOS本部執行委員にも参加願っている。便宜上、これを拡大理事会と呼ぶ。

[会議] 過去1年間に拡大理事会は4回の会議を開き、会務の処理に当たった。第1回3月13日、第2回6月12日、第3回9月11日、第4回12月11日(本日午前)である。第1・2・3回の議事についてはすでに JAPAN ICOMOS INFORMATION 誌の第4期第6・7・8号にそれぞれ報告が掲載されている。

#### 2. 会員

本年々初に行なった手続きによって、現在、ICOMOS本部に正式に登録されている日本イコモス会員は総数158名であり、すべて個人会員である。

[入会・退会] 過去1年間に理事会は17名の入会申込と5名の退会届を受理・承認した。従って2000年次の本部登録会員数は170名になる予定である。この件については本総会において承認(追認)をお願いする。

#### 3. 国際専門分科委員会

ICOMOS傘下に、本年創設されたものを含めて、現在、総計20種の国際専門分科委員会が設けられている。日本イコモスからは、昨年未までに、それらのうち13専門委につき、VOTING MEMBER / および ASSOCIATE MEMBER を送っている。

[委員の選任] 本年、理事会は新たに1専門委につき VOTING MEMBER を選任した。また、3専門委につき ASSOCIATE MEMBER 各1名を追加選任した。この件については本総会において承認(追認)をお願いする。

[国際会議] 本年中に開催された専門委の ANNUAL MEETING, SYMPOSIUM 等のうち、日本イコモス代表委員が出席したのは、次に示す9件であった。

① ANALYSIS AND RESTORATION OF STRUCTURES IN ARCHITECTURAL HERITAGE (イギリス、マンチェスター、2月) 日高健一郎氏。② CULTURAL ROUTES (スペイン、イビザ、5月) 杉尾邦江氏。③ LEGAL ISSUES (スペイン、トレド、7月) 河野俊行氏。④ UNDERWATER CULTURAL HERITAGE (メキシコ・シティー、10月) 荒木伸介氏。⑤ CULTURAL TOURISM (メキシコ、グアダハラ、10月) 石井 昭氏・宗田好史氏。⑥ WOOD (メキシコ、グアダハラ、10月) 伊藤延男氏。⑦ LEGAL ISSUES (メキシコ、グアナファト、10月) 河野俊行氏。⑧ VERNACULAR ARCHITECTURE (メキシコ、モレリア、10月) 大河直躬氏・前野まさる氏。⑨ CULTURAL ROUTES (メキシコ、グアナファト、10月) 杉尾邦江氏。なお、上記の④～⑨はいずれも後述する「第12回 ICOMOS 総会」の一部として、あるいはその機会を利用して、催されたものである。

[今後の対応] 日本イコモス会員の国際専門分科委員会活動への参加は、過去数年間にわたる継続的努力により著しく進展した。しかし、現状はまだ必ずしも十分とは言えない。議案書の末尾に参考資料を載せたので、時間が許せば、今後の対応方針について協議をお願いしたい。

#### 4. 小委員会

日本イコモス国内委員会規約第25条にもとづき、拡大理事会の議を経て、昨年中に次のような3種の小委員会が発足した。(a) 第1小委員会(文化遺産の保護に関する憲章等の研究) 主査: 益田兼房氏、顧問: 稲垣栄三氏、全8名。(b) 第2小委員会(出版・講座・旅行等の企画協力) 主査: 羽生修二氏、全3名。(c) 第3小委員会(歴史的建造物の構造補強等に関する研究) 主査: 日高健一郎氏、全8名。これらは現在も存続し所定の任務を担当している。

[新設] 本年次第3回拡大理事会(9月11日)で次のような小委員会を新設することとした。(d) 第4小委員会(世界遺産に関連する諸問題の研究) 主査: 稲葉信子氏、委員: 全10名以内の予定で検討中。

#### 5. 事業

過去1年間に日本イコモスが単独または共同で実施した主な事業は以下の通りであった。

[研究会] ①「海外における文化遺産の調査と保存に関する円卓会議ー第3回」(日本建築学会建築歴史意匠委員会共催、2月2日、東京・建築会館) 報告: 三宅理一氏・西本真一氏、総括: 中川 武氏。②「近・現代建築の保存について考えるー第2回ーモダニズムと保存」(6月5日、東京・JIA会館) 序言: 石井 昭氏、講演: 三宅理一氏・南條洋雄氏、司会: 田原幸夫氏。③「建築遺産の保存修復と建築史ー海外編」(日本建築学会東洋建築史小委員会共催、11月20日、東京・建築会館) 序言: 鈴木博之氏、報告: ヨルゴス ラヴァス 氏・三宅理一氏・増井正哉氏・中川 武氏、総括: 渡辺勝彦氏、司会: 岡田保良氏。④「近・現代建築の保存について考えるー第3回ーヨーロッパ最新事情・ドコモモの活動と保存」(12月4日、東京・JIA会館) 序言: 石井 昭氏、講演: 渡辺研司氏・矢代真己氏・山名善之氏、司会: 田原幸夫氏。また、本日の総会に続いて次のような研究会を開催する。⑤「世界遺産をめぐる諸問題」(12月11日、東京・学士会館) 講演: 本中 眞氏・稲葉信子氏、司会: 石井 昭氏。

[継続研究事業] ①「海外の文化遺産の保存に関する憲章等の研究と日本での憲章作成の検討」= 公益信託大成建設自然歴史環境基金による1998年度助成事業、第1小委員会担当、主査: 益田兼房氏。本年3月末に報告書を完成した。

[出版協力・講座協力] ① 近畿日本ツーリスト出版部刊「世界遺産を旅する」全12巻の記事監修(有志担当、終了)。② 東京都江東区文化講座「続・世界遺産の旅ー中東・南アジア」への出講(有志担当、終了)。

## 6. 広報

従来同様、本年もまた、事務局の支援を得つつ役員各位が特に尽力したのは、全会員を等しく対象とする広報活動であった。総会・研究会・等の開催通知、ICOMOS MEMBERS DIRECTORY のための原票提出依頼などは、ダイレクトメールで送った。一方、総会報告・理事会報告・研究会報告・国際専門分科委員会活動報告・等の諸報告、日常の会務を記録した事務局日誌、会員の参考に供し意見を徴すべき資料・解説・要請などは、各当事者に執筆を依頼して JAPAN ICOMOS INFORMATION 誌に掲載した。

[INFORMATION 誌] 過去1年間に第4期・第5号(3月5日)、第6号(6月9日)、第7号(8月16日)、第8号(11月19日)と、計4回発行し、全会員へ郵送した。これらの号には、上述した諸記事のほか、時宜にかなう主題を選んで適任者に依頼した記事も載せた。坂本 功氏「歴史と構造そして ICOMOS-ISCARSAH」、西沢英和氏「土壁の応急補修を考える」、村上裕道氏「阪神大震災と文化財建造物の構造補強」、渡辺勝彦氏「ネパールでの国際的保存活動」(第6号)、南條洋雄氏「世界遺産としてのブラジリア」、西村幸夫氏「パガン遺跡の保存」(第7号)、片野朋治氏「US/ICOMOS SUMMER INTERN PROGRAM に招かれて」、伊藤延男氏「木造建築フォーラム〈第36回大阪国際フォーラム〉」、西浦忠輝氏・二神葉子氏「国際文化財保存修復研究会からの知見」、羽生修二氏「プトナ国際会議を開催して」(第8号)などがその例である。

## 7. 第12回 ICOMOS 総会

本年10月17日から23日までの1週間にわたり、メキシコ国内の4都市(メキシコシティ、グアナファト、モレリア、グアダハラ)を舞台として、第12回ICOMOS総会(GENERAL ASSEMBLY and INTERNATIONAL SYMPOSIUM)が開催された。わが日本イコモスからも荒木伸介・土井崇司・石井 昭・伊藤延男・片方信也・河野俊行・前野まさる・宗田好史・西村幸夫・大河直躬・杉尾邦江の各氏(11名)がこれに参加し、ASSEMBLY では石井が VICE CHAIRMAN を務め、SYMPOSIUM では西村氏がグアナファト会場の RAPORTEUR を担当したほか、片方氏・河野氏・大河氏がそれぞれ研究発表を行なった。また、最終日に実施された ICOMOS 本部次期役員選挙では執行委員立候補者の西村氏が12名中第4位という高得票で当選した。

この総会の模様については、ごく簡単な「速報」をINFORMATION 誌第8号に載せたが、追って、参加者全員の分担執筆による詳しい報告を第9号(特集号・近刊)に載せる予定である。

## 8. ICOMOS 諮問委員会

1999年次の ICOMOS ADVISORY COMMITTEE MEETING は 上述の総会に先立ち、10月16日にメキシコシティで開催され、日本イコモス代表として委員長(石井)が、また本部執行委員として西村幸夫氏がそれぞれ出席した。この会議の模様についても 追って INFORMATION 誌第9号で報告することとしたい。

(以上 一般報告)

上記の「一般報告」に続いて、次ページに示す通り、宮本長二郎理事より「1999年会計報告」が、また木原啓吉監事より「1999年会計監査報告」が行なわれた。

これら3種の報告はいずれも全会一致で承認された。



(2) 日本イコモス国内委員会 1999年会計報告 (1998/12/8 ~1999/12/6)

1. 繰越金	普通預金	<u>3,354,635円</u>
2. 収 入		
	90年~98年滞納分会費	200,000円
	99年分会費	1,290,000円
	2000年分前納会費	20,000円
	普通預金利息	1,701円
	定期預金利息	35,141円
	出版企画協力等謝金	564,000円
	研究会参加費	22,000円
	寄 付	90,000円
	合 計	<u>2,222,842円</u>
3. 支 出		
	ICOMOS本部99年会費 (158名)	783,614円
	会 議 費 (総会・理事会等)	213,533円
	研 究 会 費	138,105円
	渡 航 費 補 助	0円
	通 信 費	360,680円
	印 刷 費	395,150円
	事 務 用 品 費	100,307円
	事 業 費	2,231,625円
	事務局人件費補助	600,000円
	慶 弔 費	20,000円
	合 計	<u>4,843,014円</u>
4. 残 高	普通預金 (繰越金+収入-支出)	<u>734,463円</u>
5. 基 金	定期預金 (イコモス研究振興基金)	<u>12,550,000円</u>

以上の通り報告します。  
1999年12月11日

会計担当 宮本長二郎



会計監査欄 監査の結果

正確に報告されており可なりと認め可なり。

1999年12月11日

監事

木原啓吉



## II. 審議

### (1) 入会者および退会者の承認

理事会は1999年中に下記の通り17名の入会と5名の退会を承認した（日本イコモス国内委員会規約第17条）。 - 敬称略。

入会者	現職	推薦者
(第1回理事会・3月13日)		
南條洋雄	株式会社南條設計室代表	田原幸夫・陣内秀信
(第2回理事会・6月12日)		
磯野哲郎	(株)パデコ シニア・アーキテクト	岡田保良・山田幸正
(第3回理事会・9月11日)		
泉 拓良	奈良大学文学部文化財学科教授	安原啓示・岡田保良
東樋口護	京都大学大学院工学研究科助教授	岡田保良・宗田好史
浜崎一志	滋賀県立大学人間文化学部助教授	益田兼房・岡田保良
前川 要	富山大学人文学部助教授	藤本 強・安原啓示
町田 章	奈良国立文化財研究所長	坪井清足・沢田正昭
(第4回理事会・12月11日)		
尼崎博正	京都芸術短期大学学長	安原啓示・杉尾伸太郎
大井邦明	京都外国語大学教授	岡田保良・藤本 強
大野 敏	横浜国立大学工学部助教授	吉田綱市・稲葉信子
岡崎篤行	東京都立大学大学院工学研究科助手	西村幸夫・山田幸正
友田博通	昭和女子大学国際文化研究所教授	山田幸正・岡田保良
仲 隆裕	京都芸術短期大学助教授	安原啓示・杉尾伸太郎
布野修司	京都大学大学院工学系研究科助教授	岡田保良・宗田好史
松波秀子	(株)清水建設技術研究所主任研究員	稲垣栄三・小寺武久
八木雅夫	明石工業高等専門学校助教授	大河直躬・岡田保良
山崎正史	立命館大学理工学部教授	岡田保良・宗田好史

退会者 事由

(第1回理事会・3月13日)  
川添智利 1999年1月29日逝去 書面により遺族から申出

つづく

(第2回理事会・6月12日)

岡田英男 重病 2月17日付け書面により家族から申出  
 田中 琢 本人希望 3月20日付け書面により本人から申出  
 森 宣勝 逝去 3月29日付け書面により遺族から申出

(第4回理事会・12月11日)

屋部憲右 本人希望 12月1日付け書面により本人から申出

2000年の年初に上記入会者および退会者の登録および抹消を ICOMOS 本部に申請する(日本イコモス国内委員会規約第14条)。

本件について総会の承認をお願いしたい。

審議の結果、承認。

## (2) 国際専門分科委員会委員の選任

理事会は1999年中に下記の通り4種の国際専門委に参加するVOTING MEMBER または ASSOCIATE MEMBER を選任した。－敬称略。

INTERNATIONAL SCIENTIFIC COMMITTEE	VOTING M.	ASSOCIATE M.
(第2回理事会・6月12日) Cultural Tourism	----	宗田好史
(第3回理事会・9月11日) Historic Towns and Villages Vernacular Architecture Stone	---- ---- 西浦忠輝	福川裕一 前野まさる

(1) 上記の ASSOCIATE MEMBER (宗田好史、福川裕一、前野まさる) は 当該国際専門委の現 VOTING MEMBER (石井 昭、上野邦一、大河直躬) と明年中の適当な時期にそれぞれ交代するものとする。

(2) 任期は原則として3年間。ただし、専門委ごとに規約、改選時期、等に相違があるので、今後の対応については各委員がそれぞれ検討し、必要に応じて理事会に申し出るものとする。

本件について総会の承認をお願いしたい。

審議の結果、承認。

### (3) 2000年次活動方針

日本イコモス規約第22条の主旨に沿い、今期（1998年－2000年）の理事会では、理事全員（14名）が会務を次のように分担している。

副委員長： 藤本 強・前野まさる  
会員担当： 岡田保良・近藤公夫  
事業担当： 田原幸夫・日高健一郎・安原啓示  
渉外担当： 稲葉信子  
広報担当： 藤木良明・宗田好史・山田幸正  
庶務担当： 渡辺保弘（＝事務局担当）・上野邦一  
会計担当： 宮本長二郎

また、規約第25条の主旨に沿い、現在、理事会のもとに3種の小委員会が設けられており、各小委員会の主査が拡大理事会に参加している。

第1小委： 益田兼房  
第2小委： 羽生修二  
第3小委： 日高健一郎（＝理事）

これらの理事および主査より以下のような活動方針が示めされた。

#### 1. 活動全般

（藤本 強）

2000年次の活動方針としては、99年次の方針を受け継ぐことになる。99年はイコモス総会が開催されるなど対外関係が国内委員会の重要な課題であったが、本年はここ数年来討議が重ねられてきた国内委員会の組織の中長期的な課題に一定の見通しをたてる、いわば内政重視の年次ということになる。対外的には大きな役割を果たし、また果たすことが責務となっているイコモス国内委員会も、こと組織の実情ということになるとそれはきわめて寂しいのが実情である。国内委員会に期待されている責務が果たされているのは一部の役員と会員の献身的な努力によるものである。これからも国内委員会に対する期待はますます大きなものになることはあれ、それが小さくなることはまず考えられない。その期待に応えるためにも、組織的に強化していくことが求められよう。種々の提案がなされているが、それをよりよい方向で具体的にまとめる年にする必要がある。20世紀最後の年、さらにいえば2千年紀最後の年である。のであるから、組織としての足腰を強くして新しい世紀、千年紀を迎えることが重要である。

#### 2. 会員担当

（岡田保良）

先年来検討を繰り返し、99年度に「年間 1-2割の会員増」として99年度も堅持し、個人会員の増強をはかる。99年度は数名の退会者を差し引くと会員増は10名ほどであり、いま少しの努力が必要と思われる。

新会員推薦にあたっては、単に入会希望者を待つのみならず、

- ・国内外における文化遺産の調査や修復に関するさまざまな活動を牽引される方々、
- ・イコモスにとって有用な情報を提供できると期待される方々、
- ・国際専門委員会の各分野において活躍の期待できる方々、

には、イコモス側から積極的に入会を促すようつとめる。とくに、国際専門委員会へのメンバー候補推薦の機会に、多様な世代にわたる人材がつねに確保されている状況を目ざしたいと考える。

（近藤公夫）

日本イコモス国内委員会活動の基盤である会員数の増大について会員の意見を集約する。

### 3. 事業担当

(田原幸夫)

昨年から年2回の目標で進めてきた「近・現代建築について考える」と題した研究会も、今年12月4日で3回目を終了した。この研究会の目的は、今や我が国においても大きな社会的テーマとなってきた、「近過去」の建築遺産の保存について、ICOMOSだけではなく広範な関係者のご協力を得ながら、毎回テーマを絞って考えてゆこうというものである。幸い我が国においても DOCOMOMO の活動がスタートし、JIA(日本建築家協会)関係者の関心も非常に高いものがある。近過去の遺産それも所謂「モダニズム建築」などについては、日本イコモスの活動のフィールドとしてまだいささか違和感をお感じになる会員諸氏も多いと思われるが、現代の生活環境創りの中で「遺産」を大切に活用してゆくことはいまや世界的なテーマであり、ここにおいては「文化財」をより広範な概念において促える事が必要となる。こうした考え方のもとに、2000年次においても年2回(春・秋)、より具体的テーマを設定し、21世紀へむけての方向を探りたいと考えている。

(日高健一郎)

ISCARSAH(解析と構造補強専門委員会)の活動に対応して、歴史的建造物の構造補強に関する研究会を開催したいと考えている。イコモスの主旨と動向に沿った研究会を効果的に開催できるよう、他の事業担当理事に協力したい。

(安原啓示)

- ・「遺跡整備マニュアル」作成を目的として、文化庁記念物課主催で、「史跡等整備のあり方に関する調査研究協力者会議」を継続しており、その概要をインフォメーションに報告してゆきたい。
- ・文化庁記念物課の指導で、毎年「全国史跡環境整備担当者会議」が開催されており、その概要をインフォメーションに報告してゆきたい。
- ・(奈良の)泉氏や、(富山の)前川氏の入会があったので、関西で、遺跡の調査・修理・修復・復原・整備・管理についての研究会を開催するよう助言・指導を行いたい。

### 4. 渉外担当

(稲葉信子)

ICOMOS NEWS に日本イコモス国内委員会からのニュースが必ず掲載されるよう、年2回は記事を送りたいと思います。またEメールによる本部からの通信が増えていますので、正式のメールアドレスの設置について早急に検討したいと思います。  
(現在は暫定的に渉外担当理事の職場のアドレスに送られてきています)

### 5. 広報担当

(宗田好史)

1999年度より、インターネットによる広報活動に着手すべく検討を続けている。日本イコモス委員でも、日頃のコミュニケーション手段として、これまでも電子メールが急速に普及してきた。海外との連絡だけでなく、国内の理事・委員相互の連絡にも多く使われるようになった。そのため「メーリング・リスト」開設が期待されている。とりあえず、会員のメールアドレスを早急に集めたいと考えている。ただし、インターネットを利用しない会員を考慮すると、メーリングリストは、当面実験的は試用に限定し、従来の通信手段はそのまま継続することも必要である。実験的な試用とは、委員会のメーリングリストを拡大理事会の範囲に限定すること、その後、電子メール利用会員全員に広げることが可能か検討することである。2000年度には、懸案であったメーリングリストにはまず着手したいと考えている。

またこれまで議論されてきたように、日本イコモス国内委員会の「ホームページ」を立ち上げなければならない。そのサイトをどこに置くかが検討されてきたが、当面の間利用しやすいサイトであるカナダ・イコモスのあったサイトについても、具体化

する作業を始めている。ホームページの内容は、当面の間、簡単なものとし、日本国内の世界文化遺産の紹介については、各地の関連サイトへのリンクで済ませようと考えている。会員名簿、規約等、「日本イコモスのしおり」の内容に準じたものとした。追って JAPAN ICOMOS INFORMATION の内容の掲載等を検討する。

(山田幸正)

昨年度と同様、主に [JAPAN ICOMOS INFORMATION] の編集・発行を通じて、イコモスを中心とする文化遺産保存の活動に関する様々な情報を会員の方々に提供し、国内委員会の活動がさらに一層、活発化することに寄与したい。理事会での報告や論議を速報することを最大の役目と考え、今後も年4回程度、定期的に発行する。イコモス国内委員会が主催あるいは共催する研究会、講演会、シンポジウムなどを中心にその告知や報告などをできるだけタイムリーに掲載していく。また、世界各地で開催される文化遺産関連の国際会議や専門委員会などの情報についても、可能な限り、会員各位にお知らせするよう努めたい。現行における紙面の体裁を引き続き今年度も維持していく方針である。

## 6. 庶務担当

(渡辺保弘)

近年の活動および広報の活性化、また本部会費の値上げに伴い、本会の恒常的活動に対する支出規模も飛躍的に増大した。昨98年次(会員数 150名)に 203万円であった恒常的な支出経費が、2000年次(同 170名、予定)予算では最低でも 287万円と見積られた。20名の会員増(会員数 170名、会費 1万円)に対して、支出は85万円増えている。最大の原因は ICOMOS 本部への送金会費が一人あたり 1,600円値上げされ、総額27万円程増えたことによる。しかし他の恒常的活動経費にも同程度の支出増が2000年次に見込まれる。これに対して2000年次の予想収入は、会費 169万円、未納分会費収入48万円と計上したが、実際のところは両者合わせてようやく会員数分の額(170万円)に近づくのが例年の実績である。預金利息は4万円に満たない。したがって安定収入である会費および基金等利息の合計 173万円は、予算支出としての 287万円を 114万円も下回る。この差額の内80万円は、出版企画協力等謝金などの会費外活動収入で賄える見込みがあり計上した。来年次も例年同様、会費の滞納が発生すれば、不足分は73万円程残る繰越金より調達せねばならない。ちなみに来年次は会員一人当たりに対して、本部送金会費 4,800円、INFORMATION発行・発送経費 3,000円、その他の必要経費 9,100円、合わせて会員一人につき 16,000円が算出される。さらなる活動・広報の充実化を計る場合にはより多くの必要経費が当然求められることになる。来年次はこの実情を踏まえ、2001年次以降の財務上の運営基盤の安定的なあり方を確立すべき検討が望まれる。またそれと共に、2001年次に計画されている事務局移転と新たな事務局組織のあり方も十分な検討が必要な事項として指摘される。

## 7 会計担当

(宮本長二郎)

これまでの懸案事項である会費滞納の解消、会費増加、会費以外の財源獲得、会費値上げなど、財政運営にかかわる諸問題は、委員会・事務局によって改善すべく努力を続けているが、本部 ICOMOS への納入金値上げにより逼迫度は増し、苦しい運営を強いられている。加えて 2001 年度の事務局移転問題は新たに大きな財政負担が予想されるなど、2000年は財政運営上試練の年である。したがって会費の大幅値上げによって対処するか、或いは会員倍増や国内委員会の法人化など、組織上の改革をとまなう方向転換を目指した解決策を講じる必要もあろう。いずれにしても委員会で討議を重ねる必要があるが、会員諸氏の積極的な意見・提案を期待したい。

## 8. 第1小委員会

(益田兼房)

1 憲章検討研究報告書には、稲垣顧問が作成された木造建築保存の共通原理ともいふべき考え方が簡潔にまとめられている。昨年の憲章小委員会や研究会では、この英

文化作業が提案されており、まずこれを行いたい。そして、この考え方を基礎に、各専門分野の経験の深い方々のご意見をインタビュー等で伺い、論点を整理していくことが、各分野での憲章検討を促進することになると考えられる。

この作業はまた、各分野に共通なためにイコモスとして議論がしやすいのがオーセンティシティ概念の整理作業である。奈良会議以後すでに30余りも行なわれているという海外でのオーセンティシティ議論の資料を集め、その中の重要なものを選んで、翻訳する作業も順次進めていきたい。

このような作業のため、憲章小委員会活動に若い世代の協力をさらにいただけるよう、委員や協力委員メンバーの補充等も検討したい。2005年の中国でのイコモス総会に、日本として憲章分野での存在感を出せるか、がひとつの目標となろう。

## 2 町並み保存分野の憲章検討活動との連携

現時点で、短時間の内に具体的な憲章の制定が検討可能な分野は、憲章検討報告書でも述べたように町並み保存分野と見られる。憲章を検討できる当該分野の組織として『全国町並み保存連盟』が存在し、平成10年9月の第21回全国町並み（東京ゼミ）で問題提起がなされ、憲章ワーキンググループ（主査：上野邦一イコモス歴史的町並み国際分科会日本代表）が活動を開始し、平成11年10月の大分県臼杵市での第22回全国町並みゼミでは憲章の枠組みが提示されている。平成12年10月の宮崎県日南市でのゼミでは、連盟としての憲章の原案の採択が行われる予定である。

このため、日本イコモス国内委員会憲章小委員会の委員等が連盟の作業に加わる形で調整を行いつつも、ある程度まとまった段階で小委員会として検討を行ない、イコモスとしての意見を正式に反映させる機会をつくりたいと考えている。連盟及びイコモスで連名で署名できるような原案が採択された後には、イコモスとしてはその英文の表現等を検討し、日本のこの分野での正式な国内憲章としての承認を国際分科会やパリ本部に求めていく必要がある。これを2002年のイコモス総会に間に合わせるためには、平成12年度での集中的な作業が欠かせない。当面、憲章小委員会はこの作業に重点を置くことになると思われる。

## 9. 第2小委員会

(羽生修二)

江東区の文化センター教養講座「世界遺産を旅する」(2シリーズ)の講師紹介および1997年から3年に亘った『世界遺産を旅する』(全12巻)の出版協力の事業も本年次をもって終了しましたが、その他の2~3の企画は、いずれも先方の都合で取り止めとなりました。引き続き次年次も現在のところ、予定されているものはありません。会員の皆様の中で何か良いアイデアをお持ちの方がいましたら、是非ご連絡いただきたいと思います。

## 10. 第3小委員会

(日高健一郎)

ISCARSAH(解析と構造補強専門委員会)での「歴史的建造物の構造補強のための指針」第3部("Annexes")の作成状況に対応して、次回ISCARSAH会議に先行して本小委員会を開催し、日本側意見の取りまとめを行なう予定である。なお、メキシコ総会の折に開かれたISCARSAH委員会には、日本からの委員が出席できなかったが、主査日高がISCARSAH運営委員会のアジア代表として再選された。

以上の2000年次活動方針は、若干の質疑応答が行われた後、異義なく承認された。

(4) 2000年次予算 (1999/12/7-2000/12/6)

1. 繰越金	普通預金	<u>734,463円</u>
2. 収入		
	2000年分会費	1,620,000円
	未納分会費	480,000円
	普通預金利息	1,500円
	定期預金利息	35,000円
	出版企画協力等謝金	800,000円
	合計	<u>2,936,500円</u>
3. 支出		
	ICOMOS本部会費	820,000円
	会議費	170,000円
	研究会費	200,000円
	渡航費補助	100,000円
	通信費	370,000円
	印刷費	410,000円
	事務用品費	100,000円
	事業費	100,000円
	事務局人件費補助	600,000円
	合計	<u>2,870,000円</u>
4. 残高	(繰越金+収入-支出)	<u>800,963円</u>
5. 基金		
	定期預金(イコモス研究振興基金)	<u>12,550,000円</u>

上記の予算書が宮本長二郎会計担当理事より理事会提案として示され、審議の結果、原案のとおり承認された。



### III. 協議

#### ■ 国際専門分科委員会活動への今後の対応

先ず石井委員長が以下のように報告した。

国際専門分科委員会への日本イコモス会員の参加は過去数年間の継続的努力によりかなり進展したが、まだ十分とは言えない。昨年次（1998年次）総会でも同じテーマを話し合った。その時の結論は「各専門委ごとに Associate Member を含む複数の委員を選任することによって、国際的な活動を充実させるとともに、Voting Member の負担軽減と委員交代の円滑化を図ることが望ましい」というものであった。本年次（1999年次）はその方針に沿い、3専門委に Associate Member 各1名、1専門委に Voting Member 1名、計4名を新規選任することができた。

こう述べたあと、下表を提示して現況を具体的に説明した。

参加 14 専門委	委員名（選任時期）	註
① HISTORIC GARDENS AND SITES .....	近藤公夫（94年以前）	△
② WOOD .... 伊藤延男・村上裕道・松本修自・益田兼房・渡辺保弘（94年以前）		○
③ HISTORIC TOWNS AND VILLAGES .....	上野邦一（94年以前）・福川裕一（99年）	○
④ TRAINING .....	稲葉信子（95年）	△
⑤ STRUCTURES .....	日高健一郎（96年）・坂本 功・西沢英和（98年）	○
⑥ UNDERWATER CULTURAL HERITAGE .....	荒木伸介（96年）	△
⑦ VERNACULAR ARCHITECTURE .....	大河直躬（96年）・前野まさる（99年）	○
⑧ EARTHEN STRUCTURES .....	岡田保良（96年）	△
⑨ CULTURAL TOURISM .....	石井 昭（96年）・宗田好史（99年）	○
⑩ LEGAL ISSUES .....	河野俊行（97年）	○
⑪ ARCHAEOLOGICAL HERITAGE MANAGEMENT .....	牛川喜幸・本中 眞（97年）	△
⑫ PHOTOGRAMMETRY .....	西村 康（98年）	△
⑬ CULTURAL CORRIDORS .....	杉尾邦江（98年）	○
⑭ STONE .....	西浦忠輝（99年）	—

#### 未参加 6 専門委

- |                             |              |
|-----------------------------|--------------|
| ⑮ ROCK ART                  |              |
| ⑯ STAINED GLASS             |              |
| ⑰ ECONOMICS OF CONSERVATION |              |
| ⑱ WALL PAINTING             |              |
| ⑲ RISK PREPAREDNESS         | （新設）（委員選任予定） |
| ⑳ SHARED HERITAGE           | （新設）         |

上表右端に付した「註」は先方（国際専門委）の活動状況と当方（日本代表委員）の対応状況とを大雑把に評価したもので、次のように理解ねがいたい。

- 関係良：国際専門委側にも日本代表委員側にも特段の問題なし
- △ 要改善：どちらか一方または双方に多かれ少なかれ問題あり
- 新参加：今のところ不明

出席者諸氏による協議はおおよそ次の通りであった。

岸本雅敏氏： 私は特に⑩ ARCHAEOLOGICAL HERITAGE MANAGEMENT 専門委に関心を持っている。本年8月発行の INFORMATION 誌第8号に掲載された理事会報告を読むと、同専門委の Senake Bandaranayake 委員長の呼び掛けで DELHI RECOMMENDATION 「＜考古学的発掘に適用されるべき国際的諸原則についてのユネスコ勧告、1956年＞」に関する改訂準備会が創設され、日本イコモスを介して坪井清足氏—または他の適任者—の参加が要請された由であるが、この件は以後どうなっているか。

石井委員長： 改訂準備会の創設はイコモスの専門委から発議されたとはいえ、その性格は明確でない。対象は UNESCO RECOMMENDATION である。Bandaranayake 氏は 駐フランス・駐ユネスコ・スリランカ大使の地位にあるので、目下のところユネスコに顔を向けているのではないか。要請状を受け取った私は理事会の了承を得て、坪井氏に人選を委ね、青柳正規氏を推薦した。本年7月前後であったと思う。Bandaranayake 氏からはファックスで礼状が来たが、以後、連絡がない。青柳氏からも報告を聞いていない。新しい情報が届いたならば岸本先生には必ずお伝えする。

石井委員長： 先の表で ⑥ UNDERWATER CULTURAL HERITAGE 荒木伸介氏と、⑧ EARTHEN STRUCTURES 岡田保良氏の項をご覧いただきたい。△マークが付いているが、問題はもっぱら先方の国際専門委員会側にある。両氏は迷惑を蒙っている。

荒木伸介氏： 私は日本イコモスの推薦を受け、97年にオーストラリアで開かれた会議に初めて出席した。その時はオブザーバーであった。98年の初めに Voting Member の改選があり、再び日本イコモスの推薦を受けたが、残念なことに落選した。今年メキシコ会議では Voting Member 同等の扱いで歓迎された。しかし資格はまだ正式のものではない。先方の委員長 Robert Grenier 氏は、石井委員長から厳しく抗議された、申し訳ない、と言っていた。規約に問題があるらしい。

岡田保良氏： 事情は荒木氏の場合とほぼ同様である。石井委員長から推薦状が提出された96年末以来、先方のリストに登録されているが、正式に Voting Member と認められていないため、委員長 Fernand Pinto氏からときどき挨拶のような電子メールが届く程度である。会議にはまだ出席したことがない。

石井委員長： 両委員会の場合、Voting Member の数を制限している点に問題がある。前者では18名、後者では12名で、顔触れがかなり固定しているらしい。国際専門委員会を律する共通原則たる Eger Principles に反するので、私は機会あるごとに改善方を申し入れてきた。メキシコでは Grenier 氏だけでなく Pinto 氏にも抗議しておいた。ところで、稲葉信子氏が属する ④ TRAINING 専門委の近況はどうか。

稲葉信子氏： 会議に出席したのは95年である。その後は通知がない。委員会自体が最近不活発らしいが、私の名がリストに載っていないとも聞いた。

石井委員長： 先方の委員長 Jukka Jokilehto 氏が来日した時に稲葉氏の登録については確認し合っているので、名簿から漏れているというのは解せない。書面は私の前任者の時代に提出されたと思う。ともあれ近いうちに先方へ問い合わせてみる。

伊藤延男氏： 種々の困難があるにせよ国際専門委員会への参加が次第に活発化してきたことは喜ばしい。③ WOOD 専門委は最も歴史の長い例の一つであるが、先のメキシコ会議で役員改選を行なったので、これに呼応して、日本側の態勢も再検討したいと考えている。未参加6委員会のうちでは、⑨ RISK PREPAREDNESS 専門委に続いて、⑩ WALL PAINTING 専門委への参加をぜひ考えて欲しい。つい先頃、東京国立文化財研究所で国際セミナーが開かれた時、スリランカから WALL PAINTING 専門委の Nimal Silva 委員長が来日したので、この件を話し合った。⑮ ROCK ART 専門委も適任者がおられたら参加した方がよいと思う。

(1999年次総会報告・完)

## 2000年次第1回理事会（拡大理事会）報告

2000年次の第1回理事会（拡大理事会）が去る1月22日（土曜日）午後1時から4時30分まで東京・虎ノ門の国立教育会館で開催された。出席者は委員長：石井 昭、理事：稲葉信子・上野邦一・岡田保良・田原幸夫・前野まさる・宮本長二郎・宗田好史・安原啓示・山田幸正・渡辺保弘、顧問：稲垣栄三、小委員会主査：益田兼房、事務局員：我妻綾子の各氏で、報告事項・審議事項は以下の通りであった。

### 報告事項

#### 1) INFORMATION 誌第4期第8・9・10号の発行

第8号は昨年11月19日発行済み。巻頭1頁に「第12回ICOMOS総会（メキシコ）速報」を載せ、その中に「本部役員当選者名簿」を含めた。第9号は「メキシコ総会特集号」で、出席した11名の全員が寄稿、近日（2月初旬）発行の予定である。第10号は「日本イコモス1999年次総会報告」「研究会報告」その他で、内容はほぼ決定しているので、なるべく早く発行したい。- 以上の通り委員長から報告された。

#### 2) メキシコ総会での本部役員選挙結果をめぐる疑問と紛争

メキシコ総会最終日（グアダラハラ、10月23日）の午前～午後、コンピューターシステムを用いた3ラウンドの投票（①幹部4役、②内2役決選、③執行委員）が実施され、逐次、議長発表をもって本部役員（計5役：20名）の当選者が決定された。ところが、その各段階ごとに議場へ口頭で報告された投票総数、候補者別得票数、得票率計算値、等をめぐって、選挙終了と同時に出席者の一部から正当かつ重大な疑問が提起され、これに対し責任ある回答が示されなかったため、選挙の無効さえも主張する抗議が行なわれ、延々たる議論が紛争へと発展した。議論は時間切れで終了。直後の午後7時から別会場で閉会式が挙行された。混乱の根本原因はコンピューターシステムの不備と選挙運営の不手際にあったと言えよう。疑問と紛争は3ヵ月を経過した今日もなお解決していない。

委員長から以上のような報告があった後、各方面から届いている報告書・意見書・提案書・声明書などのうち重要な6点の資料が配布され、席上、時間の許す範囲で意見交換を行なった。最後に委員長から「この難問題に日本イコモスはどうか対処すべきか。諮問委員会（ADVISORY COMMITTEE）の副議長 Suzanna Sampaio 女史から 態度表明を求められ、苦慮している」「諮問委員会の議長は Michael Petzet 氏であるが、氏は今次選挙で会長職に立候補し当選しているので、現在は實際上、Sampaio 女史が各国の国内委員会委員長の意見を取りまとめる役割を負っている」旨が付言された。

#### 3) 世界遺産 MACHU PICCHU 遺跡の観光開発問題（続報）

前々回拡大理事会（昨年9月11日開催）で扱った標記の問題に関連して、委員長から以下のような報告があった。

ケーブルカー新設阻止運動の推進者たる Alberto Martorell Carreño 氏と メキシコ総会の会場で面談した。氏の言によると「肝心のペルーイコモス国内委員会は無関心を装っている」「ケーブルカー建設業者は日系ではなくスイス系である」「ペルー政府に対する

日本の影響力を遺産保護のために行使してほしい」由であった。総会会期中、氏は機会あるごとに問題を訴え署名を集め、かつ同調者たちと連名で決議案を提出した。－ 同総会で採択された決議文は次の通りである。

C) In relation to the concerns expressed relative to the heritage of certain regions, - The General Assembly : - (23) Asks the Executive Committee : - to request from the National Committee of Peru further explanation on the planned construction of a cable car at the site of Machu Picchu ( World Heritage Site ).

#### 4) US/ICOMOS INTERN PROGRAM 参加希望者の募集

事務局および委員長より標記の件について以下の通り報告があった。

前回拡大理事会の決定に従い、米国イコモスから届いた募集要項（コピー）を去る12月17日、全会員に郵送し、「身边に応募希望者がおられたら必要書類一式を日本イコモス事務局へ1月20日までに提出するようご指導いただきたい」旨を通知した。

#### 5) 世界遺産候補の審査に関するICOMOS本部からの要請

世界遺産候補「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の評価作業をめぐってICOMOS本部から書面（昨年11月30日付）で要請されたのは、既報の通り、(1) EVALUATION MISSION の受け入れに協力すること、(2) 候補案件に関する日本イコモスの CONFIDENTIAL な意見書を提出することである。前回拡大理事会で審議した結果、本件についての措置は安原・稲葉両理事と委員長に一任された。本部からの最近の連絡（1月4日付）では、MISSION として中国イコモスの Guo Zhan 氏が1月27日から2月1日までの予定で来日するとのことである。－ 委員長から以上の報告があった。

次いで安原理事から具体的な措置について以下のように報告された。－ 本件は町田 章氏（現職：奈良国立文化財研究所長）に依頼し承諾を得た。(1) 同氏は Guo Zhan 氏の沖縄滞在中に現地へ赴き合流する予定である。(2) 意見書は同氏が作成、署名し、石井委員長が連署したうえでICOMOS本部へ送ることとする。

### 審議事項

#### 1) 新規入会者および退会者の承認

入会者	現職	推薦者
工楽善通	ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所研修事業部長	金関 恕・石井 昭
中嶋 耕	全国町並み保存連盟事務局長	稲垣栄三・前野まさる
西谷 正	九州大学文学部教授	安原啓示・岡村道雄
田中禎彦	文化庁文化財保護部建造物課文部技官	稲葉信子・清水真一

退会者

事由

ペーレント・メリー 帰国 1999年12月22日付け書面により家族から申出

前回理事会以降、上表に示す4名の入会申込と1名の退会願を受理した旨、委員長から報告があり、審議の結果、これらのすべてを承認した。

## 2) 国際専門分科委員会への参加者の選任および解任 (継続)

前々回理事会(昨年9月11日開催)において継続審議の措置をとった4専門委の参加者について、今回、重ねて審議し、以下の通り決定した。

### - RISK PREPAREDNESS 専門委

新設専門委のため、メキシコ会議の状況を見て判断するべく結論を保留していた。

(決定) 益田兼房氏(本人内諾)を Voting Member に選任する。

### - WOOD 専門委

この専門委には成文規約がなく任期制もない。現在、日本から5氏が参加しており、いずれも在任6年以上に及んでいる。

(決定) 村上裕道氏を Voting Member に、また 伊藤延男氏、松本修自氏、渡辺保弘氏を Associate Member にそれぞれ再任する。便宜上これを2期目とみなす。益田兼房氏を解任する。

### - ARCHAEOLOGICAL HERITAGE MANAGEMENT 専門委

現在、2氏が参加しており、在任3年、改選時期にあたる。

(決定) 小野 昭氏(本人内諾)を Voting Member に、また 岸本雅敏氏(本人内諾)を Associate Member にそれぞれ選任する。牛川喜幸氏、本中 眞氏を解任する。

### - HISTORIC GARDENS AND SITES 専門委

現在、1氏が参加しており、在任6年以上に及んでいる。

(決定) 杉尾伸太郎氏(本人内諾)を Voting Member に、本中 眞氏(本人内諾)を Associate Member にそれぞれ選任する。近藤公夫氏を解任する。

## 3) 日本イコモス夏期研修国際交流事業準備案

前野理事=副委員長から標記の議題が提出され、以下のような趣旨説明があった。

米国では、毎年夏期に文化財建造物の記録保存に関する国際的研修事業を実施し、イコモス国内委員会が窓口になって、その参加者を募集している。日本からは過去6年間、毎年1人ずつ大学院生が招かれた。この事業は本来、双務的な交流事業であるから、日本イコモスとしても相応の企画を立てなければならない。外国の若手専門家が日本の伝統的木造建築とその保存手法を体験学習できる機会を提供したいと考える。

次いで、同理事から「事業準備内容」と題し、1) 研修内容、2) 研修期間、3) 受入事業体、4) 資金問題、5) 募集条件、6) 募集要項、のそれぞれについて現在検討中の細目が示され、難題は3)と4)であると指摘された。

拡大理事会としては、一昨年以来この議題を数回にわたって審議したにも拘らず成案を得ないまま中断した経緯にかんがみ、次回以降、さらに継続審議することとした。

## 4) 当面の事業計画

### - 研究会・懇親会

- ①来る4月15日(土曜日)午後5時から、来日中の Diana Gergova 女史(ブルガリア-イコモス会員、考古学)を講師に招いて講演会を開き、続いて懇親会を催す。交渉と細目決定を前野理事に委ねることとした。
- ②研究会「近現代建築の保存について考える」の第4回および第5回を本年前半および後半に予定する。従前通り、準備を田原理事に委ねることとした。
- ③シンポジウム「建築遺産の保存修復と建築史」(日本建築学会と共催)を本年11月頃に予定する。前回同様、準備を岡田理事に委ねることとした。
- ④関西地区で本年内に1~2回は研究会を催す。準備を上野理事に委ねることとした。

### - 世界遺産条約関連問題研究班(第4小委員会)

当小委員会の構成メンバーによる世界遺産条約関連資料の輪読会を2ヵ月に1回程度の頻度で継続開催する予定である旨、稲葉主査(理事)から報告された。

## 5) 日本イコモスの組織に関する中長期的課題(審議再開)

一昨年(1998年)は、標記課題について拡大理事会で継続審議を重ねたうえ、年次総会でも会員諸氏から意見を聴いた。その結果、けっして問題が解消したわけではないが、議論自体はほとんど尽くされたかに見えたので、昨年(1999年)は審議を休止した。その間にも有志の方々が日本イコモスの将来を思って種々ご努力くださったことは言うまでもない。本年は、12月末をもって役員任期が終わるので、次期役員へのスムーズな引継ぎを念じつつ、標記課題についての継続審議を再開したい。- 委員長から、このような説明があった後、現状認識とともに具体的課題が以下の形で示された。

- [会 員] 個人会員主義・漸増主義がおおむね成功している。路線を変更するとしたら、どのような方向か。
- [財 政] 現状はきわめて苦しい。会費は値上げできるか。会費外収入を確保する可能で望ましい方法は何か。
- [事務局] 来年から事務局を何処に置くかについて未だ明るい展望がない。どうしたらよいか。これが最重要課題である。

今回は、宮本理事=会計担当=から最初に包括的な意見が述べられ、これをめぐって自由な討論が行なわれたが、まだ何らの結論も得られていない。

## 6) 拡大理事会の今後の開催日時

おおむね3ヵ月に1度、土曜日の午後で開催することを前提として協議し、本年次内の拡大理事会を以下の通り予定することとした。

- 第2回 : 4月15日(土)午後1時-4時半
- 第3回 : 7月22日(土)午後1時-4時半
- 第4回 : ADVISORY COMMITTEE (予定10月下旬)の前か後
- 第5回 : 12月9日(土)午前11時-12時半

(拡大理事会報告 文責・石井 昭)

共催シンポジウム報告：  
『建築遺産の保存修復と建築史—海外編』

岡田保良

去る11月20日午後、港区建築会館において標記のシンポジウムが開催された。日本建築学会歴史意匠委員会が主催、イコモス国内委員会は共催団体として協力した。このシンポジウムは、1998年度まで建築学会の東洋建築史小委員会が主催し、3年度にわたって催された「海外における文化遺産の調査と保存に関する円卓会議」の公開版として企画されたものである。その主旨は、アジア諸国をはじめとする建築遺産保存修復事業の当事国では、建築史というアカデミズムが必ずしも確立されているとは限らず、ときには世界的な建築遺産の歴史的な位置づけがなされていない場合すらあるという現状をふまえ、そこに関わる研究者が、建築史学の観点から建築遺産の保存修復の意義を探ろうというものである。

第1回の今回は、三宅理一氏（慶応大）が「東欧の教会建築」、増井正哉氏（奈良女大）が「ガンダーラの寺院建築」、中川武氏（早稲田大）が「アンコールの建築」について、それぞれ報告を行い、加えて熊本大学が招聘していたアテネ大学のヨルゴス・ラヴァス教授に記念講演をお願いした。司会進行は伊藤重剛氏（熊本大）と筆者、西本真一氏（早稲田大）が記録を担当した。有料のシンポジウムだったにもかかわらず、イコモス事務局が広く会員に参加を呼びかけたこともあり、100名近い参加者でホールは満席に近い盛況であった。シンポジウムの進行と内容は、およそ以下の通りである。

冒頭、歴史意匠委員会委員長の鈴木博之氏（東大）から、保存事業と建築史学との関係は何も東洋に限る議論ではなく、西欧でも日本国内をテーマとしてでも同様な議論があつてよいと、早くも第2回以降を約するような主旨説明があつた。

つづくラヴァス氏の講演は、「エルサレムの聖墳墓教会—その歴史と修復事業」と題し、ビザンチン建築史および考古学の専門家としてキリスト磔刑の故地に建つ本教会の歴史と伝統を概説し、キリスト教5宗派（ギリシア正教、カトリック、アルメニア、コプト、シリア各教会）が互いに協同、牽制しつつ、一つの教会建築の維持管理や修復事業を遂行することの困難さと、そこに働く人間の知恵や愚かしさについて、氏の貴重な経験が語られた。氏はギリシア正教会を代表する調査修復担当官の立場にあり、かつて地震で倒壊した鐘楼の修復を進めていること、つい最近、十字架跡を覆っていた石板を除去して代わって強化ガラス板で覆い、巡礼者誰でもが目にできる仕掛けを作ったことなど、多数のスライドを駆使しての熱演であった。なお講演は英語で行われたが、そのほぼ全文と邦訳が配布の予稿集に掲載されている。

日本人による報告の一番手は、やはりキリスト教文化圏にあるルーマニアの遺構修復に長年携わっている三宅氏から「モルドヴァの修道院建築の保存修復事業—ルーマニア・モルドヴァ地方の修道院」と題する発表。歴史的にみて、15世紀になって初めて登場して17世紀まで続いたモルドヴァ独自の修道院建築形式は、対トルコ戦勝記念の意味があるほか、その起源や、建築家、画家集団などの成立要因には不明な点が多いという。今日ではすぐれた地域景観とともにルーマニアの観光名所となっているが、過去の地震被害や、無住化によって荒廃が進んでおり、木造小屋組の修理、内外壁フレスコ画の修復、耐震補強を含む地震破損の修理などが必要な遺構が多く、修復事例として三宅氏自身が参画し、ユネスコとルーマニア政府とが共同で事業を進めてきたプロボタ修道院がとりあげられた。日本の協力で近隣に開設された国際保存修復センターが動き始めたことも紹介された。

二人目の基調報告、増井氏による「建築史におけるガンダーラ仏教遺跡の位置づけと保存

修復の問題点」では、氏が1983年以降のラニガト遺跡発掘調査からこの地域に関わりをはじめ、94年からはユネスコ信託基金による同遺跡修復事業へと活動を展開する中で、体験からにじみ出る問題提起がなされた。ガンダーラを中心をなすマルダン県には600を越える石積みを伴う遺跡が知られるものの、今までの考古調査は山岳寺院に偏っていて都市集落遺跡調査が立ち遅れていること、日本をはじめとするガンダーラ研究はいまだストラクチャーから遊離した美術史分野が先行していて絶対年代の探求が不十分であることが指摘された。遺構の保存事業ではセメントなど回復の難しい素材が安易に用いられる点、トラクタによる開墾など単純な遺跡破壊行為があつたを絶たないなど、まだ初歩的な問題が多いという。

最後の報告となった中川氏は、演題を「JSA アンコール遺跡修復事業により得られた建築史的知見」とし、境内の測量結果に基づくアンコール・ワットの平面計画上の特質と、パイヨン北経蔵の基壇と基礎の部分解体における新発見という2つの観点からアンコールの建築史と修復法に迫った。前者について採用された基準尺に関する詳細な考証があり、後者については現地の伝統工法の評価、素材の調達ルートの開拓、それらに伴う人材養成などが強調された。さらに、アンコールだけではクメール建築を語れないこと、パイヨンは何故成立したか、そしてその何を保存すべきかなど、探求するべきことは尽きないようであった。

つづいて若干の意見交換の機会があり、建築的遺産を保存修復する究極の目的は何かという問いに対し、「過去の真実追究、つまりはオリジナルの素材や構造体にとって何が最良の処置かをつねに考えること」というラヴァス氏の言葉が印象に残った。最後に渡辺勝彦氏（日本工大）から、「文化遺産には過去の修復も含めてそれぞれ固有の歴史があり、幅広く問題をとらえる必要があること」「個々人の関わりには継続に意味があり、我々総体として今は事例の積み重ねこそが重要だ」という総括的な発言を得てシンポジウムは閉幕した。

なお、ラヴァス氏の参加に当たり、日本イコモスから通訳者を提供していただいたことに対し、主催者の一人として謝意を表したい。次年度以降の計画は未定だが、参加者の多くから会の継続を望む声が聞かれ、主催者一同、第2回の開催に向けて努力を約する次第である。

(了)





## < 研究会報告 >

### 近・現代建築の保存について考える (その3) ヨーロッパ最新事情—ドコモモの活動と保存

事業担当理事：田原幸夫

前回に引き続き、近現代建築それもモダニズム建築の保存につき考えてみようという企画である。建築における Modern Movement (近代主義運動) の研究・活動組織としては、1989年に DOCOMOMO が結成され、1990年の第1回大会以来世界的組織として活動を続けている。その DOCOMOMO を中心としたヨーロッパにおけるモダニズム建築の保存活動につき現地の事情に詳しい若手研究者3名の方々に報告していただくというものである。日本において DOCOMOMO は正式にはまだ発足しておらず、既に10年の実績のあるヨーロッパ諸国の現状から、今後日本における DOCOMOMO のありかたを、特にわが ICOMOS との連携において考えてみることも重要であろうと考えたからである。

#### プログラム：

- 1) 序言 日本イコモス国内委員会委員長 石井 昭 氏
- 2) 講演 \* イギリスにおけるモダニズム建築の現状と課題  
渡辺研司氏 (AA スクール大学院修了・博士 (工学))  
\* オランダの近代集合住宅の保存・再生・活用  
矢代真己氏 (前デルフト工科大学研究員・博士 (工学))  
\* フランスの文化財制度と近代建築  
山名善之氏 (フランス国立ナント建築大学非常勤講師)
- 3) 意見交換

#### 講演の概要：

先ずはじめに日本イコモス国内委員会委員長の石井昭氏より序言をいただいた。氏は「イコモス」および「ヴェニス憲章」の紹介をされたうえで、現在我が国でもブームになっている「ユネスコ世界遺産」の問題点を、文化遺産に関する助言機関としてのイコモスの立場からコメントされた。現代の「観光」の隆盛は文化遺産に対する人々の関心を高める一方で、遺産に対する大きな脅威となっていること、そのために専門家集団としてのイコモスが果たす役割の大きさについての指摘である。また昨年10月にメキシコで開催されたイコモス総会において「20世紀の建築」と「近代産業遺産」について初めてのシンポジウムが開かれたとのご報告があった。これは当研究会の企画担当者としても心強い限りであり、今後海外の動きもにらみながら、より有意義な活動をして行かなければと改めて感じた次第である。

さて、講演のトップは渡辺研司氏。氏は芦原建築研究所勤務後1993年に文化庁派遣芸術家在外研修員としてイギリスに渡り、その後1998年までAAスクール大学院においてイギリス近代の建築家・リュベトキン(図-1)につき研究をされた建築家である。またヨーロッパにおけるドコモモの活動にも早くから関心を寄せられ、日本においても一昨年発足したドコモモ・ワーキ

ンググループの主要メンバーの一人として活躍しておられる方である。渡辺氏は先ず、イギリスにおけるモダニズムを中心とする近代建築の保存活動が、1970年のペヴスナーによる50作品のリストアップ作業によってスタートし、その後Architectural Review誌による1930年代特集やナショナルトラストの活動を経て、その後ドコモモUKの設立へと発展していったこと。特にジョン・アラン(図-1)という建築家が、彼の師でもあるリュベトキンの作品の保存・再生活動を通じて果たしている役割の大きさを、ロンドン動物園のペンギンプール(図-2)の修復例などを示しながら紹介された。またドコモモUKの組織は現在50名程度であるが、その構成は建築家・建築史家・行政官からなり、異なる職能を繋ぐ重要な役割を果たしていると述べられた。これは今後我が国の近代建築の保存活動においても大いに参考とすべき点であり、また当研究会の大きな目的のひとつでもあることを改めて確認しておきたいと思う。

2番手は矢代真己氏である。氏は1987~1989年オランダ政府給費留学生としてデルフト工科大学へ留学されたご経験をお持ちの建築史家である。オランダは「モダニズムの王国」とも言われるように20世紀の世界の建築に対して大きな影響力を有してきた国であり、現在ドコモモの本部もオランダに置かれている。矢代氏は、オランダにおける近代建築の保存運動がこうした歴史的経緯と共に、干拓地という国土の特殊条件による地球環境への重大な関心(海面上昇への危惧)によることを指摘され、そのため建築の断熱性能をはじめとする環境負荷低減への積極的取り組みについても言及された。オランダの近代建築としてはバウハウス校舎(デッサウ)と並ぶ20世紀の代表的建築といわれるファン・ネレ工場(図-3)の現状から近代集合住宅の事例まで、多くのスライドを用いて紹介されたが、とくにファン・ネレ工場のインテリアデザインは現代の我々からみても実に新鮮なものに感じられた。また集合住宅で興味深かったのはキーフーク集合住宅(図-4)である。この集合住宅は1930年、J. J. P. アウトの設計により建設されたものであるが、近年その老朽化のために全て取り壊した後、全く新しい建築として再建(復元)されたのである。モダニズム建築は歴史的モニュメントに比べれば耐久性に乏しい建築である場合が多い。そうした現実的に保存が困難な建築の場合、新材による再建(復元)が果たして歴史を継承することになるのかということをお我々は真剣に考えてみる必要があるだろう。また講演の最後に矢代氏が述べられた、アムステルダムでは住民を都心に回帰させるという政策に伴って都心を歩行者優先とした結果、企業が郊外へ出て行くという状況が発生し、新たな都市問題となっている、というお話は興味深いものであった。

最後の講演は山名善之氏である。氏は香山アトリエ勤務後、1994年に文化庁派遣芸術家在外研修員としてパリ大学パシエ・リボ学校博士課程に学び、現在フランス国立ナント建築大学非常勤講師を勤められている。氏のパリ大学における指導教官はフランス・ドコモモ会長のジェラルド・モニエ教授であり、ヨーロッパにおけるドコモモ活動をつぶさに見てこられた方でもある。講演の内容は、フランスにおける近代建築の保存を、文化大国としてのフランスの法制・政策の中で多様な側面から捉えた、とても興味深いものであった。特にル・コルビュジェの作品の現状についての数多くの報告には興味が尽きないものがある。コルビュジェの著名な作品はもちろん国の歴史的記念物として保護されているのであるが、例えばペサックの集合住宅(図-5)における、建築家ではないコルビュジェファンとも言うべき一般の方々の保存活動からは、近代建築特有の多くの問題が浮かび上がってくるように思われた。モニュメントとして「保護」するよりも、先ず建築を愛し「使い続けること」に近代建築の保存問題の本質があるのではないかと思われた。またフランスにおける近代建築の歴史的記念物指定第1号(1957年)のシャンゼリゼ劇場について、ブルデルの壁面彫刻を有していることが指定の1つの理由であったこと、機能的に改



図-1: リュベトキン (右)  
とジョン・アラン (左)

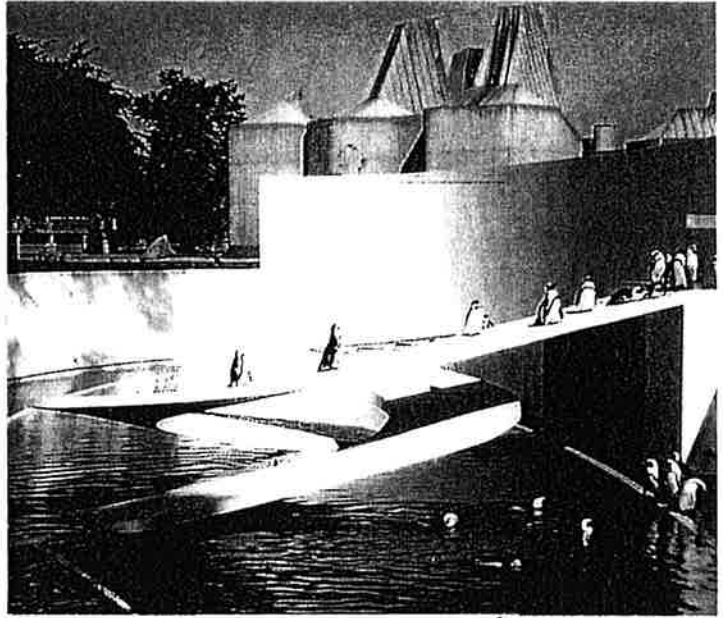


図-2: ロンドン動物園ペンギンプール  
(リュベトキン、1934年)

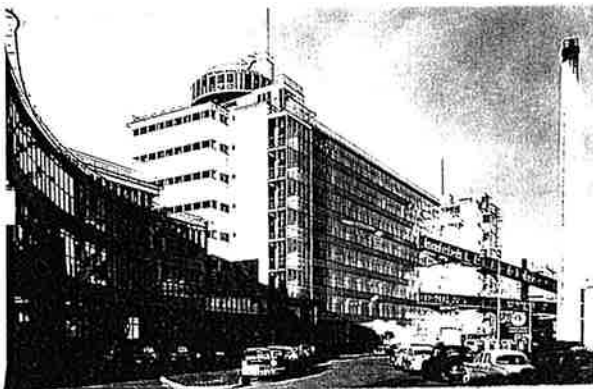


図-3: ファン・ネレ工場  
(マルト・スタム他、1930年)

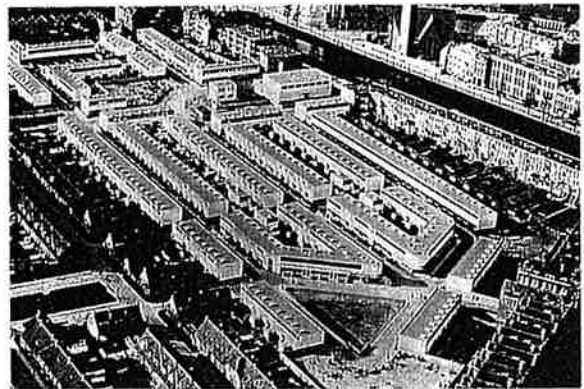


図-4: キークーク集合住宅  
(J. J. P. アウト、1930年)

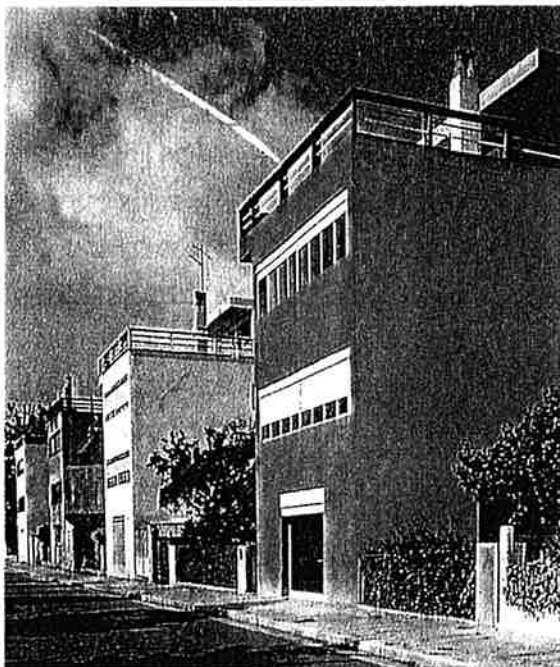


図-5: ペサック集合住宅  
(ル・コルビュジェ、1926年)

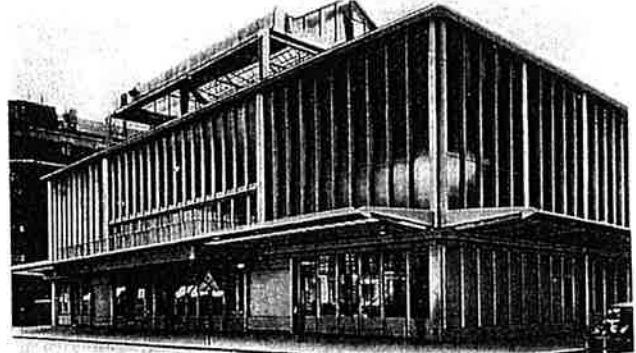


図-6: クリシー人民の家  
(ジャン・プルーベ他、1939年)

変せざるを得ない部分（レストランなど）については指定から外されていたことなども興味深かった。また近代の遺産としては、有名な建築以外に、対独戦の戦跡や余暇施設なども数多く指定されていること、指定・登録文化財全体の中で 20 世紀の遺産はフランスにおいてもまだまだ極めて少数派であることも紹介された。最近の話題として、建築家、レンゾ・ピアノの熱心な保存運動の結果、1983 年に歴史的記念物に指定された「クリシー人民の家」（図-6）における修復計画が紹介されたが、修復後の暖房システムは当初の設計とかけ離れたものになっている。この修復工事には「建物の技術的理解も無しに、単なる形の復元をしている」との批判もあると聞く。モダニズム建築の保存においては、技術の革新性も含めた「設計コンセプト」の尊重がより重要なポイントであることを教えてくれているように思えた。

## 意見交換：

先ず JIA 保存問題委員会委員長の兼松紘一郎氏より、「DOCOMOMO20 選」に選定された同潤会・江戸川アパートの保存につき、本日の参加者の皆様からも今後バックアップをお願いしたい旨のアピールがなされた。（近々同アパートの保存についてのシンポジウムが予定されている。）また兼松氏からは、ヨーロッパにおける修復建築家の社会的位置づけや教育システムについてのご質問があり、山名氏よりフランスの、渡辺氏よりイギリスの現状についてのご説明があった。特にフランスの修復建築家制度においても、20 世紀の建築の保存・修復については対応が難しくなっているとのコメント（山名氏）は印象的であった。

日本イコモス顧問の稲垣栄三氏からは、全体を総括されて以下のようなコメントをいただいた。本日の講演の内容は、近代建築の「モニュメントとしての価値」に主要な視点が合ったように思うが、20 世紀の建築の問題は完成してからの使われ方にあるのではないか。つまり建築を永く使い続けるという、より一般的な建築の問題として「保存」を捉えることが重要になっている。そしてそのためのノウハウは既に社会的にはかなりの蓄積があるのではないか。また「ヴェニス憲章」では、過去の建築家や現代も含めた各時代の創造行為への敬意がそのベースにあり、それ故に「復元」を厳しく禁じている。したがってキーフフークのような再建（復元）の場に憲章の関係者がいたならば、多分計画に反対したであろうとも述べられた。

東京芸術大学の益田兼房氏からは、「修復教育」に関連して以下のようなコメントをいただいた。日本においても「修復」の仕事の増加とそれに伴う修復建築家養成への要求は必然の流れであろう。また最近では少ない受け皿に希望者が殺到している状況もある。またドラスティックな修復よりもメンテナンスこそが大切であることも忘れてはならない。さらに「修復すべき価値」というものは、各時代において「価値ある行為」が発生したか、ということであり、そうした視点からは 20 世紀の建築はまだコンセンサスを得ていないのではないかと述べられた。

「我が国における修復建築家（修理技術者）は、一生文化財修理に忠誠を誓うという職能である」との益田氏のお話から、筆者はフランスなどにおける修復建築家の職能との違いや、さらには将来の修復建築家像といったものに改めて思いを巡らせたのである。「モダニズム建築の保存」という新たなる分野における保存・修復の取り組みは、研究会に参加していただいた方々を始めとする関係者一人一人の職能を超えた努力にかかっていると感じた次第である。

最後に準備・運営にご協力いただいた JIA 関係諸氏に厚くお礼申し上げたい。

参加者数：34名（内 イコモス会員 6名）

# 事務局日誌

(1999/11/1-2000/2/29)

## 1999年

- 11/1 全国町並みゼミ大会実行委員長の大戸真一氏より、第22回全国町並みゼミ白杵大会(10/8-10)が無事終了したとの報告および日本イコモスの後援を受けたことへの感謝の書状を受領。
- 11/8 12/4(土)に開催される研究会「近・現代建築の保存について考える」・第3回ヨーロッパ最新事情ードコモモの活動と保存」の案内を会員諸氏に発送。
- 11/8 アンコール遺跡保存事業連絡協議会(内閣官房外政審議室国際文化交流担当室)より、第4回協議会を開催する(12/3・金)旨の案内を受領。
- 11/15 1999年次総会および研究会(1999/12/11同日開催)の通知を会員諸氏に送付。
- 11/15 1999年次第4回拡大理事会(1999/12/11午前)の通知を理事・監事・顧問・主査・本部執行委員に送付。
- 11/19 [JAPAN ICOMOS INFORMATION]4-8 を発行、会員諸氏に発送。
- 11/29 Australia/ICOMOSより、Heritage Environment Vol.14 November 3, 1999-Pathways waterways and Railways- (44pages) を受領。
- 11/29 US/ICOMOS より NEWSLETTER No.4 September-October 1999 を受領。
- 11/29 UNESCOより UNESCO Asia-Pacific Heritage 2000 Awards for Cultural Heritage Conservationのbrochure (entry formつき) を受領。
- 12/6 会計担当理事宮本長二郎氏が来局され、渡辺保弘事務局担当理事および事務担当の我妻で、1999年次決算および2000年次予算についての打合わせを行う。
- 12/8 イコモス本部(パリ)のJean-Louis LUXEN氏(Secretary General)より石井委員長宛に、本年世界遺産候補に推薦された沖縄の[Gusuku Sites and Related Properties of the Kingdom Ryukyu]関係の書簡を受領。
- 12/11 日本イコモス国内委員会1999年第4回拡大理事会開催(於学士会館 11:00-12:30)。
- 12/11 日本イコモス国内委員会1999年次総会開催(於学士会館 1:00-3:30)。
- 12/11 日本イコモス国内委員会研究会「世界遺産をめぐる諸問題」を開催(於学士会館 3:30-6:00)。
- 12/20 IFLAの事務局長杉尾伸太郎氏より、2000年 8月に淡路島で開催される「第10回イフラ・イースタン地区2000年大会」の概要パンフレットを受領。
- 12/22 日本イコモス国内委員会2000年次第1回拡大理事会(2000/1/22)の開催通知を、理事・監事・顧問・主査・本部執行委員に送付。
- 12/22 ICOMOS/HUNGARY の Andras ROMAN 氏(Secretary General)より、2000/11/6-8 に Hungary/Budapestで開催される[Culture and Tourism 2000]-2nd International Conference and Trade Show-の案内書簡および brochure を受領。
- 12/22 Norwegian University of Science and Technology(Norway/Trondheim) より、2000/5/29-7/7 開催の[International Course on Wood Conservation Technology 2000]の案内書簡および brochure を受領。

## 2000年

- 1/3 イコモス本部事務局より、メキシコ総会での次期本部役員選挙結果をめぐる疑問と紛争に関連して、「現行規約のもとで唯一可能な結論は既発表の選挙結果を是認することである」とする COMMUNIQUE OF THE ICOMOS BUREAU(1999年12月20日付)を受領。併せて、「投票用コンピューターシステムに誤作動が生じた可能性がある」ことを認めるシステム受注会社 UNIMEDIA の報告書など、13種の関連参考資料(計36ページ)を受領。
- 1/7 Bulgaria/ICOMOS 委員長 Todor KRESTEV氏、Korea/ICOMOS委員長 KOH Byong-ik 氏、FRANCE/ICOMOS 委員長 Christiane SCHMUCKLE-MOLLARD 氏、Greece/ICOMOS 委員長 Nikos AGRIANTONIS 氏からそれぞれ石井 昭委員長宛にGreeting Cardを受領。また多数の国から年末年始にかけて E-mail による Greeting を受領。

- 1/7 イコモス本部（パリ）より、日本イコモス国内委員会所属1999年次会員名簿のコピーおよびそれに基づいた会員カードを受領。
- 1/7 イコモス本部（パリ）の Gwenaelle BOURDIN氏より、世界遺産登録が予定されている沖縄の文化財についての Evaluation Mission 派遣の件で、石井委員長宛の書簡を受領。
- 1/12 GERMAN/ICOMOS 委員長 Michael PETZET 氏より、書簡および [Journal of the German National Committee] No. 31 <OPERNBAUTEN DES BAROCK> (108pages)を受領。
- 1/12 (財) アジア・ユネスコ文化センター文化遺産保護協力事務所（奈良）より、「文化遺産ニュース」 Vol.1 (1999/11/25発行)を受領。
- 1/12 全国町並み保存連盟より、「連盟だより」第16号 (2000/1/1発行)を受領。
- 1/12 US/ICOMOS より [NEWSLETTER] No. 6 (November-December 1999) 受領。
- 1/19 沖縄県教育庁文化課の盛本 勲氏より「琉球王国のグスク及び関連遺産群の緩衝地帯」設定の基本的な考え方についての書類を石井委員長宛に受領。
- 1/19 横浜国立大学の吉田綱市氏より本年夏に行われる US/ICOMOS International Summer Intern Programへの参加希望者の推薦と関係書類を受領。
- 1/22 日本イコモス国内委員会2000年次第1回拡大理事会開催（於 国立教育会館 1:00-5:00）。
- 1/27 世界遺産候補「琉球王国のグスク及び関連遺産群」に対する Evaluation Mission として China/ICOMOS の GUO Zhan 氏が沖縄に来訪、1/31東京に立ち寄ったのち、2/1 帰国。1/29-30 町田 章氏が沖縄に赴きこれに対応。
- 1/28 会員・稲田孝司氏（岡山大学）より「考古学研究」誌(1997-1999)の抜き刷り「フランスの遺跡保護」(1)-(10)を受領。
- 1/31 1999年次在籍2000年次継続登録の会員諸氏に、本部より受領した 2000 年次の会員カードとともに、会費納入お願いの手紙を送付。
- 1/31 スリランカの Roland SILVA 氏より、石井委員長宛に ICOMOS MEMBERS DIRECTORY の第4回校正用原稿及び書簡を受領。
- 2/7 US/ICOMOS の Intern Programの選考委員（前野まさる・稲葉信子・渡辺保弘の3氏）による応募者との面接を建築会館にて実施。
- 2/7 [JAPAN ICOMOS INFORMATION]4-9(第12回メキシコ総会特集号)を発行。
- 2/9 UNESCOより [The World Heritage Newsletter]No. 21(May/June 1999), No. 22(July/August 1999)を受領。
- 2/10 中国の世界遺産候補 Ancient Villages in Southern Anhui-Xidi and Honggounに対する Evaluation Mission として、大河直躬氏（日本イコモス推薦、本部任命）が現地を訪問、2/16帰国。
- 2/14 スリランカの Roland SILVA 氏に、DIRECTORY の校正を DHL便にて送付。
- 2/16 BULGARIA/ICOMOS の Todor KRESTEV氏より、今後の日本イコモスとの交流事業についての提案の書簡及び資料を受領。
- 2/16 [JAPAN ICOMOS INFORMATION]4-9 (2/7発行)を会員諸氏に送付。
- 2/21 ユネスコ・アジア文化センター遺産保護協力事務所（奈良）より、「文化遺産保護協力に関する国際会議」及びシンポジウム (2/29-3/7) の案内、日程等を受領。
- 2/23 UNESCOより、[The World Heritage Newsletter]No. 23(September-October 1999)を受領。
- 2/23 会員・杉尾伸太郎氏（プレック研究所）より、<PREC Study Report > Vol.5 December, 1999を受領。
- 2/24 世界遺産候補「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の評価に関する日本イコモスの意見書（英文、石井昭・町田章両氏連署）を本部（パリ）へ提出。
- 2/25 (社) 日本ユネスコ協会連盟より、「ユネスコ世界遺産年報」2000(No. 5)特集－日光の神寺－を受領。
- 2/25 ARCHAEOLOGICAL HERITAGE MANAGEMENT国際専門委員会の新メンバーに選任された小野 昭氏・岸本雅敏氏が石井委員長と今後の方針等を協議（於 学士会館）。

## イコモス国内委員会 講演会・懇親会

### 「世界遺産スヴェシュタリ複合遺跡の保存計画」

ブルガリア・イコモス会員のディアナ・ゲルゴヴァ女史をお招きして標記の講演会（スライド使用）ならびに懇親会を、下記の通り、開催いたしますので、奮ってご参加ください。

日 時：2000年4月15日（土） 午後5時～7時半  
場 所：学士会館・本館 307号室  
東京と千代田区神田錦町3-28 電話 03-3292-5931  
講 演：ディアナ・ゲルゴヴァ氏（東海大学考古学教室客員として来日中）  
「北東ブルガリア、スボルヤノボ国立保存地区の発見問題と計画」  
司 会：前野まさる氏  
会 費：4,000円

なお、会場の都合で、定員を25名と限定させていただきますので、お早めに、電話またはFAXにて事務局までお申し込み下さい。（電話：03-3200-9355 FAX：03-3200-9423）

（事務局）

## 第10回イフラ（IFLA 国際造園家連盟）イースタン地区2000年大会

淡路花博「ジャパンフローラ2000」が淡路島で開催されるのにあわせて、ジャパンイフラによる標記の大会が次の通り、開催されます。

開催期間： 2000年8月30日（水）～9月2日（土）  
開催場所： 淡路夢舞台国際会議場（兵庫県淡路島）  
大会テーマ： 地球時代における地域ランドスケープの再生と創造への戦略  
サブテーマ： 1. 持続的開発の手法と実現  
2. 創生あるいは保全への提案と事例  
使用言語： 英語を基本とし、できるだけ同時通訳を用意する予定です。  
参加登録： 登録用紙および登録料の受理をもって登録完了とします。

	2000年5月末日まで	2000年6月1日以降
イフラ正会員	49,000円	55,000円
イフラ非会員	59,000円	65,000円
学生	27,000円	29,000円
同伴者	30,000円	32,000円

問合せ先： イフライースタン地区2000年大会事務局  
〒101-8641 東京都千代田区神田松永町19-2  
（株）イベント&コンベンションハウス内  
電話：03-3255-0900 FAX：03-3255-7377

（国際専門委：杉尾伸太郎）

## International Conference on Conservation

### "KRAKOW 2000"

ポーランドICOMOS国内委員会などの主催で、下記のような国際会議が開催されます。

期 間：2000年10月23日～26日

場 所：Institute of History of Architecture and Monument Preservation,  
Crocow University of Technology,

テーマ：The role and place of the cultural heritage in the development of  
21st century civilization

参加費：350 Euro

Further information : <http://www.pk.edu.pl/~c2000/>

## 2nd International Conference and Trade Show

### "Culture and Tourism 2000"

ハンガリーICOMOS国内委員会などの主催で、下記のような国際会議が開催されます。

期 間：2000年11月6日～8日

場 所：Budapest University of Economic Sciences  
Fovam ter 8, Budapest, Hungary

#### **The Aim of the conference:**

to evaluate the common activity of culture and tourism, to discuss possibilities for further cooperation, develop new fields of activity and forms of cooperation in order to meet special market requirement, promote building relationship between experts in cultural tourism

参加費：200 USD

Further information : <http://www.datenet.hu/~corvin>

以上2件の国際会議についてご関心のある方は、関係書類を事務局で保管しておりますので、ご照会ください。

(広報担当：山田)

## お詫びと訂正

本誌前号（メキシコ総会特集）19～22ページの記事をご寄稿くださいました前野まさる氏のお名前が、誤って前田まさるとなっておりました。お詫びして訂正させていただきます。

## お願い

住所、電話/FAX番号、所属などの変更のあった方は、お手数ですが、事務局までお知らせください。なお、パリ本部への登録変更に関しましては、会員諸氏からの届け出を1年分取り纏めて毎年1月に行なっておりますので、ご了承くださいませようお願い致します。

(事務局)





## JAPAN ICOMOS INFORMATION

Vol.4, No.10 22 Mar. 2000

日本イコモス国内委員会 委員長 石井 昭  
事務局 担当理事 渡辺保弘 職員 我妻綾子  
〒169-0072 東京都新宿区大久保 3-9-5-113 (株)文化財工学研究所 気付

### JAPAN-ICOMOS OFFICE

c/o Bunkazai Kougaku Kenkyusho  
3-9-5-113 Okubo, Shinjuku-ku, Tokyo 169-0072, Japan  
Tel.03-3200-9355 Fax.03-3200-9423

日本イコモス国内委員会・理事会 JAPAN-ICOMOS EXECUTIVE BOARD

President 委員長	石井 昭	Akira ISHII
Trustees 理事	稲葉 信子	Nobuko INABA
	上野 邦一	Kunikazu UENO
	岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
	近藤 公夫	Kimio KONDOH
	田原 幸夫	Yukio TAHARA
	日高 健一郎	Kenichiro HIDAKA
	藤木 良明	Yoshiaki FUJIKI
	藤本 強	Tsuyoshi FUJIMOTO
	前野 まさる	Masaru MAENO
	宮本 長二郎	Nagajiro MIYAMOTO
	宗田 好史	Yoshifumi MUNETA
	安原 啓示	Keiji YASUHARA
	山田 幸正	Yukimasa YAMADA
	渡辺 保弘	Yasuhiro WATANABE
Auditors 監事	石澤 良昭	Yoshiaki ISHIZAWA
	木原 啓吉	Kelkichi KIHARA
Advisors 顧問	伊藤 延男	Nobuo ITO
	稲垣 栄三	Elzo INAGAKI
	坪井 清足	Kiyotari TSUBOI

小委員会 WORKING GROUPS

Chiefs 主査	益田 兼房	Kanefusa MASUDA
	羽生 修二	Shuji HANYU
	日高 健一郎	Kenichiro HIDAKA
	稲葉 信子	Nobuko INABA

国際諸委員会参加者 REPRESENTATIVES TO INTERNATIONAL COMMITTEES

Executive Committee	西村 幸夫	Yukio NISHIMURA
Advisory Committee	石井 昭	Akira ISHII
Specialized Committee on: Archaeological Management	小野 昭	Akira ONO
Structures	岸本 雅敏	Masatoshi KISHIMOTO
	日高 健一郎	Kenichiro HIDAKA
Historic Towns and Villages	坂本 功	Isao SAKAMOTO
	西澤 英和	Hidekazu NISHIZAWA
	福川 裕一	Yulchi FUKUKAWA
Underwater Cultural Heritage Training	上野 邦一	Kunikazu UENO
	荒木 伸介	Shinsuke ARAKI
Historic Gardens and Sites	稲葉 信子	Nobuko INABA
	杉尾 伸太郎	Shintaro SUGIO
Vernacular Architecture	本中 眞	Makoto MOTONAKA
	前野 まさる	Masaru MAENO
Wood	大河 直躬	Naomi OKAWA
	村上 裕道	Yasumichi MURAKAMI
	伊藤 延男	Nobuo ITO
Earthen Structures	松本 修自	Shuji MATSUMOTO
	渡辺 保弘	Yasuhiro WATANABE
Cultural Tourism	岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
	宗田 好史	Yoshifumi MUNETA
Legal Issues	石井 昭	Akira ISHII
	河野 俊行	Toshiyuki KONO
Photogrammetry	西村 康	Yasushi NISHIMURA
Cultural Corridors	杉尾 邦江	Kunle SUGIO
	西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA
Risk Preparedness	益田 兼房	Kanefusa MASUDA